



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

年間第17主日 A年(2023年7月30日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：列王記上 3章5、7—12節

第二朗読：ローマの信徒への手紙 8章28—30節

福音朗読：マタイによる福音書 13章44—52節

見つけ出して、買う

三つの朗読から

第一朗読で、主なる神は「何事でも願うがよい」とソロモンに語りかけます。神さまに向かつて何を願ってもかまわないのです。ソロモンの答えは、過去の出来事への感謝(6節)、現在の自分の課題(7—8節)、欠乏の表明(9節)、そして未来への希望(9節)で構成されています。そして「聞き分ける心をお与えください」と願います。ソロモンがなによりも願ったのは、神の知恵でした。

第二朗読では「万事が益となるように共に働く」と、神は召された人たちと共に働くであります。このようにして神は日常の出来事を通じて配慮して下さいます。わたしたちは、「ご計画に従って召された者たち」とあるように、あらかじめ神の愛によって選ばれ、義とされるように召されているからです。

福音朗読では三つのたとえが読まれますが、どれもがお弟子さんたちにとっては日常の出来事でした(畑、探し求める商人、魚でいっぱいあみの網)。先週の福音朗読にあったからし種だねのたとえもパン種のたとえも同様です。「何事でも願うがよい」と呼びかける神さまは、日常生活の出来事の中で働かれるのです。そういった日常での神さまの配慮に気がついた人は、まさに「天の国」の始まりをそこに見出すのです。その人は天の国の弟子、すなわち学者となれます。しかし、そのためにはソロモンが願ったように「聞き分ける心」、すなわち神からの知恵ちえが必要となります。

説教：見つけ出して、買う

『マタイによる福音書』13章では七つのたとえ話が語られます。今日は、その一番最後の三つと、13章全体のまとめです。ここでは、イエスさまがお話になるたとえを聞いているのは弟子たちです。弟子たちとは、イエスのことばを聞いて理解した人たちに他なりません。

44節の「畑の中に隠された宝」は、偶然に宝を見出したという、そんなイメージが伝わってきます。「喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う」の「買う」は現在形です。45節の「商人が良い真珠を探している」では、探し求めるイメージが伝わってきます。「出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う」と46節に記されていますが、ギリシア語を見てみると、こちらの「買う」は過去形になっています。フランシスコ会訳は次の通りです。「高価な真珠を一つ見出すと、商人は自分の持ち物をことごとく売りに行き、それを買った」。

偶然であろうが、探し求めたものであろうが、現在の出来事であろうが、過去の出来事であろうが、「天の国」というものは「持ち物をすっかり売り払ってまでも手に入れたいと願うほどに貴重で、喜びをもたらすものなのです。

「持ち物をすっかり売り払ってまで買い求める姿は、天の国がワクワクしたもの、ときめくものであることを教えてください。そこで47節にある「網」という言葉が生きてきます。天の国は、あらゆる魚を集める網のようなものだからです。すべてを包んでいるイメージがここでは展開します。その中には「良いもの」も「悪いもの」もどちらも含まれています。正しい人であれ、罪人であれ天の国に取り込まれていくからこそ、「あっ、こんなわたしでも天の国のメンバーなんだ」という実感が生まれます。そうしたら、「持ち物をすっかり売り払ってまで手に入れたいという、ときめき感が生まれるでしょう。

反対に49節の「悪い子ども」とは、「持ち物をすべて売り払ってでも手に入れたいと望む貴重な「天の国」に気づかない鈍感な人たちのことを指します。「畑の中の宝」、「探し求める高価な真珠」は、日常の生活の中でも見出されるものです。そして、ひとたび見つけたなら、なんとしてでも手に入れたいわけにはいかないものです。神さまの働きも同様に日常生活の中で見出されます。「天の国」とはそういったものなのです。しかし、そんな「天の国」の姿、現れに気づかない人のことを、ここでは「悪い者」と呼んでいます。さらに言えばワクワク感、ときめき感がない状態のことを意味しているのでしょう。